

目的 衣服が人に与えるイメージには、柄や色のイメージが大きく影響していると考えられる。色のもつイメージや柄のイメージについては、これまでに数多くの報告がなされているが、ある色をそれ1色のみ（以下無地とする）で提示したときと、柄の色として提示したときのイメージ差については報告されていないようである。そこで、基礎的研究として基本的な衣服柄であるストライプ柄を取り上げ、色とストライプ幅の異なる試料を紙を用いて作成し、無地とのイメージ差について検討した。

方法 ①ストライプは青系と白、または赤系と白の2色配色とし、青系、赤系の明度を3段階に変化させた。ストライプの幅は0.5cmから0.5cm間隔で3.0cmまで6段階を設定し、計36種類のストライプ柄の試料を作成した。また、各色のイメージの測定ならびに比較試料とするため、無地の試料も作成した。試料の大きさは40.5cm×28.5cmである。②各試料のイメージを、無地はSD法により求め、ストライプ柄は無地の試料を比較試料として、それとの比較により求めた。評価は15の形容詞対による5段階評価とした。③結果は分散分析法、因子分析法を用いて分析した。

結果 ①ストライプ柄の試料は、明度の低いものほど、無地の試料に比較し「活動的」「はっきりした」「個性的」「かたい」「強い」「派手」と評価された。②無地の試料よりも「快」「好き」「美しい」と評価されたストライプ柄の試料は、赤系より青系の色で多くみられた。③ストライプの幅によるイメージの差は、特に「繊細な—大胆な」「痩せた—太った」の用語において表れやすいといえる。